

# 浜岡 1・2号廃炉に続き、 耐震安全性なき美浜1・2・3号を閉鎖して下さい！ 関西電力への申し入れ

若狭連帯行動ネットワーク

貴社は、来年11月で40年経過する美浜1号について、運転を継続するためには長期の保守管理方針を今年11月下旬までに国へ提出し、認可を得る必要があるため、「できるだけ早い時期に（運転についての）方針をまとめたい」との考えを示しました。

貴社に対し美浜1号の運転継続の断念を要求します。この炉は、中電が廃炉を決めた浜岡よりも古く、規模も出力34万キロワットと小規模です。同じ時期に建てられた原電の敦賀1号も2010年度中には廃炉になる予定です。美浜原発でも、近くの海底や直下にも複数の活断層が走っており、マグニチュード7クラスの直下地震に襲われる危険性があります。また、美浜2号は18年前に細管ギロチン破断を起こし、美浜3号も11名の死傷者がでる大事故を起こしました。これら3つの原発の安全管理は、未だに不十分であり、周辺住民に不安を抱かせています。美浜原発が大地震に見舞われる前に閉鎖していかねばなりません。

今月9日で、美浜2号の蒸気発生器細管破断事故から18年に当たります。18年たっても貴社の原発の「安全管理」体制、品質保証システムの確立は口先ばかりです。

2年前、貴職の新年あいさつで「引き続き私自身が先頭に立って安全運転はもとより、全社的に安全文化が浸透するよう努力する」との決意表明をしましたが、その矢先高浜1号の定期検査中の作業員が冷却水を浴びるという事故を起こしました。「作業マニュアルに従わずに、勝手に前倒しで行ったため」との貴社の説明は品質保証システムは全く機能していないことを自ら証明しました。

また、昨年8月8日、「安全の誓い」の中で、「当社は、『安全を守る。それは私の使命、我が社の使命』との社長宣言のもと、社会の皆さまにお約束した、事故の再発防止対策の確実な実施と安全文化の再構築に、全社一丸となって取り組む」と述べました。その後大飯1号の第22回定期検査中に「必要最小厚さを下回る箇所が1箇所確認」と報じました。必要な配管の厚さがないまま平然と運転していたのです。未だに配管の減肉管理すらできていないのです。

原発の配管にヒビが入り、地震の揺れなどが加われば本当に原発を安全に止めることなどできません。美浜原発の野坂断層とB断層との連動、大飯・高浜原発の熊川断層と海域断層とのつながりなどの詳しいデータを貴社は公表していません。被害を受ける可能性のある者が中間評価の妥当性を客観的に判断できないままなのに、貴社は誠意を持って説明しないのでしょうか。

貴社は、1月30日高浜原発のプルサーマル計画に使うMOX燃料の製造を開始すると発表しました。貴社の「当社のプルサーマル計画」で「エネルギー資源の乏しいわが国では、将来にわたってエネルギーの安定供給を実現していくためには資源のリサイクルシステムを確立する必要があります。プルサーマルは、限りあるウラン資源を有効に利用し、エネルギーのリサイクル社会を切り開くための重要な技術です。」と謳っていますが、これは全くの大ウソです。プルサーマルは高価で、資源節約効果もほとんどなく、重大事故の危険を高めます。関電がリサイクルシステムと言っているのは高速増殖炉が実用化された場合の話であり、プルサーマルとは関係ありません。また、もんじゅの運転再開が再度延期されたように、高速増殖炉実用化の見通しありません。ウソと虚構の上のプルサーマル推進は即刻中止すべきです。

私たちは貴社に対して 以下のことを強く求めます。

**美浜原発の閉鎖を求めます！**

**M7.3の直下地震に耐えられない原発は閉鎖して下さい！**

**貴社の原発の耐震性について公開討論会を開いて下さい。**

**MOX 燃料の製造を止め、プルサーマル計画を中止して下さい。**